

令和 5 年 8 月 3 日

I はじめに

令和 5 年 9 月市議会定例会を招集申し上げましたところ、議員の皆様には御出席いただき誠にありがとうございます。

提出いたしました議案をはじめ、市の重要案件の審議につきまして、よろしくお願い申し上げます。

はじめに、本定例会に提出した議案のうち、主なものについて申し上げます。

「令和 5 年度長野市一般会計補正予算」においては、主に、長期化する物価高への対応、子ども・子育て支援のほか、大雨等による災害復旧関連事業など、適時適切な対応が求められる事業に要する経費等を計上いたしました。

まず、長期化する物価高への対応につきまして、国では、エネルギー・食料品等の物価高克服に向けた対策を迅速かつ着実に実行しつつ、物価や経済の動向を踏まえながら、今後も機動的に対応していくとしています。

このため、市におきましても、これまで原油価格・物価高騰により影響を受けている市民や事業者の皆様に対し、様々な支援策を講じてきているところですが、物価高が長期化していることから、切れ目のない支援を進めるため、地方創生臨時交付金を活用し、住民税非課税世帯や子育て世帯の家計への負担軽減を図ります。また、私立保育所などに対し、光熱費等の価格高騰分の一部を支援するための経費のほか、食材費等の高騰が長期化する中、学校給食の食材費の価格高騰分の公費負担に要する経費の増額分などを計上しております。さらに、県の 6 月補正予算による物価高克服のための対策と連携した住民税所得割非課税世帯等への支援も盛り込んでおります。

次に、子ども・子育て支援につきましては、国において、「次元の異なる少子化対策」の実現に向けて取り組むべき政策の基本的方向を取りまとめた「こども未来戦略方針」が 6 月 13 日に閣議決定され、今後 3 年間を集中期間とする「こども・子育て支援加速化プラン」にある、児童手当の拡充をはじめとした様々な取組の内容が示されました。さらには、同月 16 日に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針 2023」いわゆる「骨太の方針」におきましても、「こども未来戦略方針」に基づき、「少子化傾向の反転に向け、

こども・子育て政策の抜本強化」に取り組んでいくとしています。

このような中、本市では、今回の補正予算に子どもたちを応援する事業として、子どもたちが気軽に参加することができる体験や学びの機会を提供し、自分の好きなことを見つけ、自己肯定感を育みながら楽しく成長できる環境を整備する「子どもの体験・学び応援モデル事業」に必要な経費を計上しました。

また、保育所等の使用済みおむつにつきまして、保護者の皆様や保育士の負担軽減を図るため、自園処理等に要する経費を計上しております。

このほか、若者や子育て世代等の本市への移住・定住の更なる促進を図るための家賃支援や、現在、土地開発公社が所有する篠ノ井駅西口ロータリー北側の未利用地を産業用地として活用するための再取得費等のほか、本年7月1日等の市内南西部を中心に発生した大雨により被災した道路や河川施設の災害復旧等に要する経費につきましても計上しております。

補正予算以外の条例関係といたしましては、長野市立中条中学校を令和7年度末で閉校することに伴う条例改正案を提出し、併せて、中条中学校の閉校に伴い、長野市の区域の一部に居住する学齢生徒に係る教育事務を小川村に委託するための議案につきましても提出しております。議会の御決定の上、子どもたちにとって望ましい教育環境を目指し、手続きを進めてまいりたいと考えております。

Ⅱ 市の動向

次に、本年度の主な施策・事業の動向について申し上げます。

はじめに、新型コロナウイルス感染症について申し上げます。

5月8日の「5類」への変更に際しては、市民の皆様に、重症化リスクや場面・場所等に応じた基本的な感染防止対策の継続をお願いし、また、市として、経済や市民生活に活気を取り戻せるよう取り組むことをお伝えしましたが、皆様の御協力により、現在は大きな混乱なく経過しております。

医療体制につきましては、この9月をもって一般診療の中で対応するとの方針が国及び県から示されておりますので、円滑な移行に向けて医療機関の皆様や医師会の皆様と連携して取り組んでまいります。

このほか、ワクチン接種につきましては、65歳以上の高齢者や基礎疾患を有する方、医療従事者等を対象とした「令和5年春開始接種」を5月8日から今月末まで実施しておりますが、今後、初回接種を完了した5歳以上の

すべての方を対象とした「令和５年秋開始接種」が９月以降に実施される予定であり、医療機関等の御協力の下、引き続き接種体制の確保に努めてまいります。

次に、子どもや若者の意見・発想を本市の情報発信やまちづくりに取り入れる取組につきまして申し上げます。

まず、広報事業につきましては、昨年度の「長野市子ども議会」において、市内小学６年生から「市のホームページを活用し、子ども目線で長野市の魅力を情報発信したらどうか」との提案を受け、本年度、新たに「長野市ジュニアアンバサダー」制度を創設いたしました。

７月２９日に、私から第１期ジュニアアンバサダー７名に任命書を交付いたしました。今後、子どもたち自らが取材した記事を、随時、市ホームページに掲載してまいります。本市の隠れた観光スポットやイベント、食べ物などについて、それぞれの感性で楽しく情報発信していただくことを期待しております。

また、若者チャレンジ応援事業につきましては、学生たちが地域づくりに参加する「ながの地域まるごとキャンパス」を実施しており、現在、３７のプログラムに１３６名の学生が参加しています。

併せて、若者が自由に集まり活動できる拠点として、もんぜんぷら座内に「(仮称)若者スクウェア」の整備を進めており、これまでワークショップを４回開催し、若者自身が使い方を考えるとともに、今後、内装等を自分たちの手で行うことで、若者が集まりやすく愛着のある場所にしてまいります。

さらに、若者の発想を本市のまちづくりに反映するため、本年度からまちづくり活動支援補助金の中に「学生枠」を新設しました。

現在、市内の大学及び専修学校等の学生や生徒による４団体から応募があり、今月７日の審査会で実施事業を決定し、今月下旬から学生等の取組が開始できるよう進めてまいります。

次に、若者の結婚や女性活躍支援につきまして申し上げます。

まず、若者の新婚世帯の経済的不安を軽減するため、本年７月から、新婚世帯の住宅の取得、賃借、リフォーム、引っ越しの費用を支援する「長野市結婚新生活支援事業補助金」の制度を開始いたしました。

結婚後の新しい生活への支援を通して、若者の結婚と本市への居住を促進してまいります。

男女共同参画に関する市民意識調査から、長野市が重点を置いて行うべき施策として、出産や子育てで離職した女性の再就職を支援する取組が

必要であるという意見が上位を占めております。

これまで本市では、IT人材確保・支援や、起業・創業者の育成に取り組んでまいりましたが、今回の調査結果を踏まえ、女性に焦点を当て、基本的なデジタルスキルの習得や起業・創業を目的とする啓発セミナーを、国の地域女性活躍推進交付金を活用し開催します。出産・育児等で離職した子育て中の女性、未就業となっている女性が、再就職等できるよう支援を行ってまいります。

次に、防災・減災対策の推進につきましては、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」の交付金を活用し、引き続き、災害に強い道路整備を進めてまいります。

次に、中心市街地活性化につきましては、末広町交差点周辺で予定されている市街地再開発事業について、善光寺の表参道入口にふさわしい顔づくりや賑わいの創出、多様な市民ニーズへの対応など、中心市街地の活性化に寄与するよう、引き続き、準備組合に適切な指導、助言を行い、円滑な事業実施に向け、支援してまいります。

また、もんぜんぷら座敷地の利活用につきましては、「もんぜんぷら座敷地利活用検討部会」において、市民アンケート結果を踏まえ、現在の敷地を含めた新田町交差点周辺のまちづくりについて御議論いただいております。引き続き、検討部会委員の皆様を中心に様々な観点から議論を進めていただき、本年度末の答申に向け、まちづくり方針を取りまとめてまいります。

次に、新型コロナウイルス感染症の影響により令和元年度以降中断していた、姉妹都市クリアウォーター市や友好都市石家庄市との交流につきましては、入国制限の緩和に伴い、本年4月以降、両国から視察団、青少年交流団、研修生を受け入れております。

また、今月26日から約4か月間、長野市内の社会人2名を約4年ぶりに石家庄市へ語学研修生として派遣するなど、相互訪問による直接の交流を本格的に再開しております。

次に、インバウンドにつきましては、海外の旅行者から本市を目的地に選んでいただけるよう、訪日観光誘客に期待が持てるタイ及び中国をターゲットとして、8月30日から9月7日まで、私が現地を訪問しトップセールスを行います。

長野市の魅力を世界に発信し、更なるインバウンド誘客につながるよう取り組んでまいります。

次に、登校支援につきましては、不登校児童生徒の社会的自立を支援する新たな教育支援センター「SaSaLAND」の令和6年4月のオープンに向けた準備を進めております。

本年6月末には、教育支援センターを利用する児童生徒と保護者を対象に、「SaSaLAND」の紹介と御意見・御要望をお聴きすることを目的に現地見学会を実施いたしました。

また、7月末には、不登校児童生徒や不登校傾向にある児童生徒とその保護者を対象に現地見学会を実施するとともに、自宅からでも参加できる「メタバース SaSaLAND」の体験会も実施しました。

今後、体験会の様子やいただいた御意見を基に検討を重ね、実際の運用に向けて準備を進めてまいります。

引き続き、当事者の皆様からお寄せいただいた声を反映できるように、SaSa サポーターミーティングにおいて協議してまいります。

次に、新産業創造の軸となるスマートシティの取組につきましては、「NAGANO スマートシティコミッション」の本年度の実証プロジェクトとして、2件を採択いたしました。

採択した2件のプロジェクトは、未利用林を活用した新たな地域活性化モデルを実証する事業と、企業の温室効果ガス排出量が見える化し、脱炭素経営を促進する事業でございます。

本市の未来の経済基盤強化につながるよう、各プロジェクトの実施を支援してまいります。

次に、5月にお示しした「青木島こども未来プラン（案）」につきましては、これまで保護者説明会や地区回覧による意見募集のほか、学校などの関係者と意見交換を行ってまいりました。現在、提出いただいた御意見等を踏まえ、市が示した案との調整を進めておりますが、引き続き、関係者を含め、子どもたちや地域にとって、より良いプランとなるよう検討してまいります。

以上、本年度の主な施策・事業の動向について申し上げます。

Ⅲ むすび

最後に、1998年に開催された長野オリンピック・パラリンピック冬季競技大会開催から25周年を迎えた今、目指すべき長野市の未来について申し上げます。

25周年記念事業の締めくくりとして、先月15日、日本オリンピック委員会

(JOC) の協力の下、長野市芸術館において、「オリンピックコンサート 2023 in 長野」が開催されました。これまで活躍されたオリンピックの皆さんにお越しいただき、当時の思い出や継承されている思いなどを語っていただくとともに、オリンピック映像とフルオーケストラが競演されました。

御来場の皆様には大変御好評をいただき、改めてオリンピック・パラリンピックが持つ本来の価値を感じていただくことができたと考えております。

「コンサートテーマ」である「夢の力を信じて」という言葉の意義を、私たち大人が、どのように未来に継承すべきかを深く考える良い機会となりました。

当時、大会で掲げた「子どもたちの参加」には、「未来ある子どもたちを応援する」という精神が込められていました。

先ほど申し上げました「子どもの体験・学び応援モデル事業」も、当時の精神を現在に受け継ぎ、25 年が経過した今、形を変えて子どもたちの様々な体験や学びを応援し、子どもたちの成長につなげていく事業です。こうした事業に思いを込めながら、夢や希望の種をまき、未来にチャレンジしようとする子どもたちをまち全体で応援する機運を、共に高めていこうではありませんか。

議員の皆様、また、市民の皆様には、引き続き市政運営にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

本定例会に提出いたしました案件は、「令和 5 年度長野市一般会計補正予算」など議案 18 件、認定 1 件、報告 11 件であります。

詳細につきましては、西澤副市長から説明申し上げますので、十分な御審議をいただき、御決定を賜りますようお願い申し上げます。